

「協働のまちづくり」と 最適な「未来への投資」による 「みたか新時代」の創造を目指して

～第3次基本計画の第2次改定にあたって～



三鷹市長

清原慶子

このたび、三鷹市では「第3次基本計画（第2次改定）」を確定いたしました。今回の第3次基本計画の第2次改定にあたっては、さまざまな方法で市民の皆様のご意見を反映するように取り組みました。たとえば、計画の骨格案を広報特集号に紹介するとともに貼付したはがきによるアンケートをお寄せいただいたり、住区ごとのまちづくり懇談会でご意見をいただいたり、「三鷹市自治基本条例」によって制度化されている「パブリックコメント制度」による意見聴取も行いました。また、市民会議・審議会でも検討をしていただきました。さらに、平成19年10月20日と21日の2日間にわたり、無作為抽出で選ばせていただいた市民の皆様への参加による「基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション」を実施しました。これは、計画策定における新しい市民参加方式として全国で初めて実施したものです。このように多層的・多元的な市民参加の取り組みによって、第2次改定においては、社会変動がもたらす暮らしの変化の中に生きる市民の皆様による市政へのニーズをできるかぎり反映するように努めました。

私は、平成19年4月の市長選挙で引き続き市民の皆様から信託をいただきましたが、その際にお示した政策や、平成19年度の「施政方針」で掲げた「都市の再生」などの新たな課題に取り組むために、これまで「安全安心のまちづくりプロジェクト」をはじめとして6項目としていた最重点プロジェクトに、「都市の更新・再生プロジェクト」を追加して7項目としました。そして平成20年度の「施政方針」では、本年度を、「輝くまち三鷹」を目指して「未来への投資」を本格的にスタートする年度と位置づけました。市民の皆様が安全に安心して、いきいきと暮らせる「高環境・高福祉のまちづくり」を推進するために、公共施設の建替え・改修、人材の育成等の「未来への投資」を最適に選択しつつ、本年度が実質的に初年度となる第2次改定計画を着実に推進していきたいと思っております。

また、「第3次基本計画（第2次改定）」は、次の「第4次基本計画（仮称）」につながるという長期的・継続的視野に立って、政策・事業の枠組みづくりや、「都市の再生ビジョン」形成の取り組みを本格的に始める大切な時期でもあります。計画の目標年次である平成22年（2010年）は、「市制施行60周年」の年にあたります。私は、第3次基本計画の最終段階の取り組みとして、計画目標の達成に全力を尽くすとともに、市制施行60周年を迎える今だからこそ、改めて「みたか新時代」の創造に向けて、確かなまちづくりを進めていきたいと決意しています。

私は、4月30日から市長として「2期目の2年目」を迎えましたが、心も新たに、誠心誠意、全力で市政運営に取り組み、着実な計画行政を推進していきたいと思っております。この「第3次基本計画（第2次改定）」に示されている目標を共有して、市民の皆様と市とが共に役割と責任を担い合う協働のまちづくりを進め、最適な「未来への投資」を行うことにより、サステナブル（持続可能）な三鷹市政を進めていきたいと思っております。